

Recherche 00015 アメリカンスリーブブラウス仕様書

布帛用

パターンパーツ数 4

後あき(コンシールファスナー)有り

左脇あき(コンシールファスナー)有り

コンシールファスナー×2・伸び止めテープ使用

サイズ	80	90	100	110	120	130	
着丈	25.5	28	30	33.5	36.5	40	
バスト	53	57	60	64.4	68.4	72	
裾囲	44	48	52	58	63.2	68	
用尺	90巾	108	113	121	127	135	142
	110巾	〃	〃	〃	〃	〃	〃

パターンにはステッチの巾等の指示が書いてありますので、本仕様書と共に確認しながら作業を進めてください。

オリジナルパターン・仕様書の著作権・販売権は Recherche が所有しています。
いかなる理由であっても、オリジナルパターン・仕様書の無断転用・複写・流用及び転売はご遠慮ください。

■ 用語

CF(センターフロント).....前中心

CB(センターバック).....後中心

SL(ショルダーライン).....肩線

AH(アームホール).....袖ぐり

SNP(ショルダーネックポイント).....肩線の衿側

空ロック.....布端処理等に用いる、縫い合わせをしないロック

コバステッチ.....1~2 mmの端ミシン

■ 裁断前に必ず地直しを行ってください。**■ コンシールファスナーは後あき寸より3 cm以上長いものを用意してください。****■ わかりやすくする為、画像のサンプルは寸法や糸の色を変えてあります。全体のバランス等、実際のものとは異なりますのでご注意ください。****※画像では接着芯を省いています。**

----- 作り方 -----

裁断

地の目線を確認し、生地の方に注意しながら裁断します。

※衿の地の目は横でも可。

ノッチ(合印)を入れます

※ノッチとは、縫い代に0.3 cmほどの切り込みを入れることです。

※ノッチを深く入れすぎるとほつれやすくなりますので注意します。

※各所縫い合わせの時はこのノッチどうしを合わせます。

伸び止めテープ(接着芯)を貼ります

後 SL に 5 mm巾の伸び止めテープを貼ります。

※出来上がり線が伸び止めテープの中央を通るように

「CBのあき」と「左脇あき」の縫い代部分に10~15 mm巾の伸び止めテープを貼ります。

※ あき止まりより1.5~2 cm長く貼ります。

空ロックをかけます

3 mm切り落としながら 5 mm巾の空ロックを「前・後身頃の SL」「前・後身頃の脇」「CB」にかけます。

タックを仮縫いします

タックの両端の線の中表に重ね、出来上がり線より縫い代側に仮留めます。



※表から見た時にタックは脇側へ倒れません。(FC から脇へ)

※タックを 2 本仮留めしたところ



※衿ぐりに 2 本、裾に 2 本タックを入れたところ

SL・衿ぐり



「前・後身頃」を中表に重ね、
「SL」を縫い合わせます。

SL の縫い代をアイロンで割りま
す。



「衿」の内側になる方に 1 mm切り落とし
ながら 5 mm巾の空ロックをかけます。

「身頃」と「衿」を中表に重ね、出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。



※ 衿を立てたところ

CB あきファスナー付け ※あき止まりより3 cm以上長いファスナーを用意します
左右の後身頃を中表に合わせ「裾～あき止まり」の出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。



※縫い始めと縫い終わりは返し縫いをします。

縫い目の長さを大きくし、「あき止まり～衿ぐり」に粗ミシン(ミシンじつけ)をかけます。



※縫い始めと縫い終わりは糸を長く出して切ります。

※返し縫いはしません。



衿を立てたまま、アイロンで縫い代を割ります。



衿ぐりの縫い代に切り込みを入れます。
※カーブの急なところは多めに



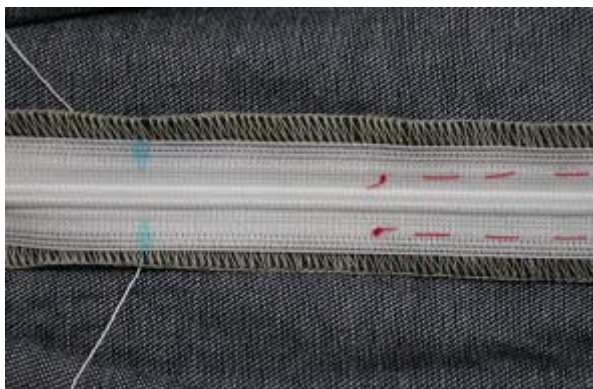
縫い代の下にクリアフォルダ等を敷き入れ、ファスナーを縫い代のみにしつけします。

※ 画像の水色のしるしは衿の折り返しの線です。



※ 折り返しの線より 3~5 mm 下に上留め具がくるようにファスナーを縫い代のみにしつけします。

※ しつけの代わりにくもの巣テープを使うと簡単です。



※ しつけはあき止まりの 5cm 上までします。

※ 水色のしるしはあき止り位置です。



両側にしつけをし、「あき止まり~衿ぐり」にかけて粗ミシンをほどこき、スライダーをあき止りより下まで下げます。

あき止り位置にチャコペン等で印を付けます。



縫い目の長さを元に戻し、押さえを**コンシールファスナー押さえ**にします。

務歯(ムシ:かみ合う部分)を押さえの溝にはめ込み縫います。

※上止め具の位置から縫い始めます。

※縫い始めは返し縫いをし、務歯を起こしながら務歯の際を縫います。



しつけの終わり位置(あき止りより 5 cm 上)まで縫い、針を下げたまま縫い線のバランスを見ます。

しつけ終わり位置～あき止り位置まで縫い進める間に 1.5～2 mmほど布端へそれるように縫います。

あき止りよりさらに 1～2 針縫い進め、返し縫いをして糸を切ります。



※反対側から見たところ

もう片方も同様に縫います。

縫い終えたらスライダをあき止りより上に引き上げます。



「衿ぐりより 12~13 mm 下~あき止りより 2 cm 下」までファスナーの端をそれぞれの後身頃縫い代に縫い付けます。

※ 身頃の縫い代のみ縫い付けます。
身頃は縫いません。

ペンチ等を使い、フリー下止め具をあき止りの 5 mm 上に固定します。

衿ぐり

「ファスナーの端」を左下画像のように折り、「衿」を折り返し線で中表に折ります。



爪やヘラ等を使い、中表に合わせた生地の上から務歯の際にクセを付けます。

「衿の折り返し」から「衿のロックの位置」まで縫い合わせます。

※ 務歯を縫わないよう注意します。



左画像の位置に切り込みを入れます。



表に反し、折り返し線をアイロンで折ります。



衿を折り返し線で折り、「**身頃の衿付け線の際**」に落としミシンをかけます。

※衿を縫わないよう注意します。

※衿の内側のロックを縫い外さないよう、確認しながら縫い進めます。

左脇あきファスナー付け ※あき止まりより3 cm以上長いファスナーを用意します

「前・後身頃の左脇」を中表に合わせ「AH の脇下～あき止まり」の出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。

P5～7 の要領で、左脇にファスナーを付けます。

～**注意点**～**BC のファスナー付けと違うところ**

※ 左脇のファスナーは上留め具が裾側になります。(ファスナーを閉じた時、スライダーは裾側になるようにします。逆に付けると着る事ができません。)



※ファスナーの端は裾の縫い代に合わせます。

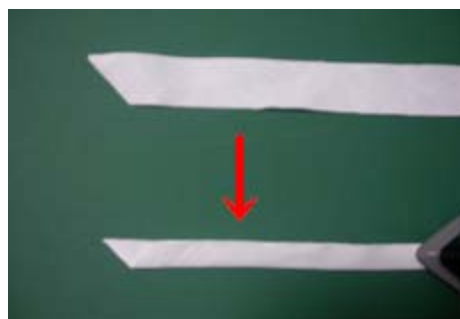


右脇を縫い合わせます

「前・後身頃の右脇」を中表に合わせ「脇」の出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせ、アイロンで縫い代を割ります。

袖ぐりバイヤス始末

※6 mmと細めのバイヤステープ処理をするため、ここでは縫い外しにくい方法で始末します。



バイヤスに18 mm巾で布を裁ちます。
外表になるよう半分にアイロンで折ります。
左右の袖ぐり分を用意しておきます。



後身頃の表にバイヤステープを重ねます。

バイヤステープの端を折り返し、袖ぐりの縫い代が布端より 2 mm 覗くように合わせます。

※ごろつきを防ぐ為、後身頃脇の縫い代より少し後方から縫い始めます。



縫い始めは返し縫いをせず、出来上がり線を縫い進めます。



袖ぐりを一周縫い、縫い始めのバイヤステープに縫い終わりのバイヤステープを重ね縫います。

※脇の縫い代は割ります。

※バイヤステープの最後は折り返さず、返し縫いをします。



縫い代のはみ出した部分を切り落とします。
縫い目を切らないよう注意しながら切り込みを入れます。
(※カーブは多目に入れます)

バイヤステープを裏側に折り、裏側からコバステッチをかけます。

※左脇のファスナーの端はバイヤステープに隠れるくらいに切り落として一緒に縫い込みます。

裾



1 mm切り落としながら 5 mm巾の空ロックを「裾」の身頃と縫い合わせる方にかけてます。

裾を中表に折り、「裾の端」～「左脇合印」まで直線ミシンで縫い合わせます。（※リボンになる部分）

反対側の「裾の端」～「左脇合印」も同様に縫い合わせます。



リボンになる部分の先端の縫い代の角を切り落とします。



表に反してアイロンをかけます。

※ リボンの部分だけでなく、折り返し線全部にかけます。



あきの縫い代は出来上がり線で折ります。

「裾」の空ロックのかかっていない方と身頃を**中表**に重ね、直線ミシンで縫い合わせます。

衿ぐりと同じ要領で表から**落としミシン**をかけます。



※裏から見たところ

※空ロックの部分は左画像参照

完成
